

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770700098		
法人名	営利法人 株式会社 メディカル・ケアサービス		
事業所名	グループホーム ミモザ園		
所在地	香川県東かがわ市白鳥1754番地1		
自己評価作成日	令和 7年 10月 20日	評価結果市町受理日	令和8年2月9日

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770700098-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和 7年 11月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症が進行悪化してもできる事を維持しできなかった事ができるように支援しています。BPSDが現れた時は状況を理解し入居者様のペースに合わせて適切なケアをしています。脳トレや作品作りも個々の能力に応じた支援を行い展示会の作品作り等で社会への参加を支援しています。日常生活自立支援事業や成年後見制度利用推進にて入居者様の尊厳を守る支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

高速道路のインターチェンジの近くで交通の便が良く、小鳥の鳴き声が絶えない自然が豊かな高台に建てられた3ユニット定員27名の事業所である。中央にはヨーロッパ風の八角形の塔を持つ明るい吹き抜けのホールがあり、そこから各ユニットが放射状に配置されている。ホールからは歌声や笑い声が聞こえ、代表者や管理者は明るく気さくで、利用者や職員との関係も良好である。また、高校のマラソン大会の会場になるなど、地域との交流も盛んで、認知症支援の中心的な役割を果たしている。運営母体が医療機関であることから、利用者や家族からの信頼も厚い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんな一緒に育む幸せ」をネームの裏にも表示し全職員が協力し実践している。毎月棟会議で常に同じ意識を確認し合う	「みんな一緒に育む幸せ」を事務所やホールに理念として掲げ、棟会議や各委員会などの機会にお互いに確認して、日々の場面で実践している。理念を忘れないように、ネームの裏にも記している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動にコロナ感染対策を行い職員が参加している。定期的に育てている花を地域の方が園に届けてくれている。社協地域包括事業認知症啓発運動に参加している	地域の清掃活動への参加をはじめ、社会福祉協議会が主催する認知症啓発活動ではチラシ配りのボランティアとして参加するなど協力体制が構築されている。また、高校のマラソン大会には会場を提供するなど、さまざまな形で地域への貢献に積極的に取り組まれている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の作品展示会に出品し地域の人々に園の支援の成果と認知症への理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策を行なった上で地域代表や市職員等と運営推進会議を開催し園での取り組み状況等を報告し情報交換やアドバイスを受けている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、行政や自治会の方等が参加している。利用者およびその家族については、感染症対策のため、現在は出席を見合されている状況である。事業所からは代表者と管理責任者が出席し、行政からの情報提供を受けるとともに、自治会の方々との交流も図られている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月初めには先月の入退所報告に出向き介護支援専門員が外部提供とご家族に代わって介護保険更新手続きの依頼等をお願いしている。調査員来園時にはご本人と共にケアサービスの内容を密に報告している。地域包括事業にも参加して協力関係を築いている	運営推進会議時における行政からの情報提供・助言に加え、毎月の定期報告書の提出時の会話などにより、行政との協力体制は良好に維持・構築されている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の三原則を守り安易に身体拘束をしないよう常に工夫した援助を行なっている。園内研修を年2回実施し全職員への周知指導を行なっている。月1回身体拘束委員会を実施している	利用者の尊厳を重視し、身体拘束を極力行わないケアの実現に向けた取り組みが継続的に行われている。毎月「身体拘束委員会」を開催し、事例検討やケアの向上に繋がる話し合いがなされている。玄関の施錠については、利用者の安全確保を目的として実施しているのもであり、利用者および家族からも理解が得られている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を年2回行い虐待防止関連法を理解し職員同士で見逃ごす事がないよう注意を払い虐待防止に努めている。又、月1回虐待防止委員会を開催し虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見人を受けている入居者様が園におり後見人が来園時には話をさせて頂いている。職員が情報の共有ができる様に会議で説明し園内研修で学ぶ機会を持っている。本年度、日常生活自立支援から成年後見制度利用の申請手続きを行い保佐人決定した入所者がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を家族に行い不安や疑問に対して理解や納得して頂けるよう十分な説明を行い支援している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染防止対策の為、サービス担当者会議等、電話で行う際に意見や要望を引き出せるように職員に周知している。公共機関や行政へ直接意見を言えるよう連絡先を教えている	感染症予防のため、ご家族等から会議にて直接意見を伺う機会が減少していることから、電話や面会時に特にご家族の意見や要望が聞けるよう留意がなされている。利用者については、代表者や管理責任者が日常的に声をかけるなど、意見や要望を伝えやすい環境作りに努められている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各棟会議、委員会に代表者や管理者が参加し意見交換を行い問題点等を話し合い提案を引き出す機会を設け反映させている	運営に関する意見や要望については、問題が発生した際にその都度、代表者および管理責任者との協議の上、適切に対応がなされている。また、毎月開催される各棟会議や委員会においても、代表者や管理責任者と職員が参加して、運営に関する課題や改善策に付いて意見交換を行い、継続的な改善に努められている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じた職員を配置し各自が向上心が持てるように環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が講師になり一年間の園内研修計画を立て実施し職員の資質向上に努めている。又、園外研修にも必要に応じて受講している。外部研修の案内があれば積極的に申し込み受講している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回グループの医療福祉連携会議がありその場で同業者との交流を図りサービスの質の向上に取り組めるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に聞き取りを行い困っている事、不安な事等の要望を聞き職員同士が情報を共有し本人の安心を確保できるよう努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に聞き取りを行い困っている事、不安な事等の要望を聞き家族やキーパーソンになる方ともコミュニケーションを取り信頼関係を築いている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時に」必要な支援はもちろん、その後の展開も見据えたサービスも提供利用に向けて支援対応している			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	園生活ではあるが家での生活と同じように日常生活の延長のような暮らしを職員と利用者様と一緒にこなしている。趣味や余暇の時間を大切に支援している			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染防止により外出外泊ができなくなったが感染対策を行っての対面での面会やオンライン面会で家族と本人の絆を大切にしている。毎月、園での生活状況を写真と共に記載し近況報告を行なっている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染防止により感染対策を行って対面での面会(10分間)を再開しオンライン面会も行なっている。本人に書いて頂いた葉書きや手紙でのやり取りも行なっている	コロナ対策として、一定期間にわたり面会の制限を実施してきたが、現在は感染対策をした上での面会が再開されている。面会が難しい利用者や家族に対してはオンライン面会の機会を設け、コミュニケーションの維持に努められている。これらの取組みによりコロナ禍以前の状態に戻ってはいないものの、段階的に日常の支援体制を回復させる試みが進められている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等で交流を深めている。孤立予防として利用者同士、関わり合いを持ってもらえるよう座席等に留意し会話等を楽しめるようにしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも経過を尋ね困り事や相談に応じている。次の移動先事業所のケアマネージャーにも同様の対応を行い本人家族を支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや家族の会話の中から本人の想いを把握し汲み取っている。本人の希望に沿った生活が送れるよう職員や家族と検討している	面会や家族との会話を通じて、利用者の思いや意向を把握するよう努められている。日頃の気付きについては随時メモに記録し、各棟会議や各委員会において職員の共通事項として共有し検討されている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りで生活歴等を把握しているが不十分な場合は外部提供を申請して取り寄せ公的な資料も参考材料にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタル測定、介護記録を記録し残している。全職員が状態把握が行えるように体制を整え支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中でニーズが発生すればその都度、検討し介護計画書に反映させている。ケアマネージャー、ユニット職員が月一回集まり利用者のモニタリングを行なっている。介護計画は異状が無ければ三か月に一回、ケアプランに対する意向を聞き話し合っている	入居時および入居後1ヶ月の段階で介護計画の見直しを実施されている。また、家族・医師・ケアマネージャー等、関係職員の意見を反映させるため、毎月のモニタリングが行われており、原則として3ヶ月に1回は、介護計画の再評価および見直しにて、利用者の状況に応じた適切な支援体制の維持に務められている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス実践表や介護記録に記入しニーズや問題点があればその都度、検討し計画見直しに活かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止対策により対面で触れ合う地域資源活用協働は行えなかったが三本松高校マラソン大会の発着所として提供したり地域の方からお花を頂いたり入居者様に地域とのつながりを感じて頂けるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他にも本人及び家族の方の希望に沿った医療機関で受診できるように支援している	経営母体である協力医療機関の医師による診察が原則月2回実施されており、利用者および家族に対して大きな安心を提供している。さらに歯科医師による定期的な往診も継続して行われており、口腔衛生を含む医療面のケア体制は充実している。これらの取組みにより、利用者の健康管理において質の高い医療支援が確保されている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問受診や外来受診時に病院の看護師と情報を共有し適切な受診や看護を受けられるよう支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ感染防止対策の為、入院中に病室に入れない為、病棟スタッフや地域連携室と連絡を取り合い関係づくりをし連携を図っている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前から説明を行い方針を聞き共有している。入居後も何度も話し合い特養等の施設や協力病院と共にチーム支援に取り組んでいる	入居前に、重度化時および終末期の対応方針について事前に説明を行い、関係者間で方針が共有されている。入居後においても、利用者の症状変化に応じて適宜検討を重ね、近隣の特別養護老人ホームや協力医療機関と連携した支援体制が構築されている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療行為はできないが定期的に研修等で訓練を行い実践力を身に付ける様に取り組んでいる。対応マニュアルは各棟の壁に貼っている。AED研修も消防署員指導の下、行った			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染防止対策を講じながら年2回消防訓練実施。その内1回は大川広域消防署から来て頂き避難訓練の他、消火器の使い方、実技訓練も行なっている。地域とは運営推進会議等で話し合い協力体制を築いている。又、グループ施設が地域住民と行う防災訓練にも参加し顔なじみになっている	コロナ対策を講じたうえで、年2回の消火訓練・避難訓練そして通報訓練が行われており、うち1回は、大川広域消防署の立ち合いのもと、消火器の取り扱いの方法に関する指導および実技訓練もなされている。また、地域との連携については、運営推進会議にて協議を重ねる事や防災訓練への積極的な参加を通じて、協力体制の強化に務められている		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけを行い尊厳を守った対応をしている。個人情報了他者に聞かれないよう大声で言わない等、環境にも配慮している	利用者のプライバシー保護を重要事項と位置付けて日常的な配慮に努められている。トイレや入浴時には必ずカーテンを使用し、視線に配慮した環境を整えているほか、利用者に対しては原則として「さん付け」で呼ぶなど、尊厳を損なわない対応がなされている。対応に疑義が生じた際には、職員間で速やかに検討を行い、必要に応じて改善策を講じる体制が整えられている。個人情報の取扱いについても、氏名や病状などを不用意に大声で口にしない等情報漏洩防止に向けた慎重な対応に努められている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や言動から本人の思いや希望を察して自己決定できるよう声掛けを行う等、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっているが一人ひとり本人のペースに合わせた強制しない介助方法を行っている。本人がしたい事を聞き希望に沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒にその時期に合わせた服装を選びおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	禁食がある方は違う食材で提供している。同じ円卓で皆一緒に食事をして終わるとテーブル拭き、お盆拭き等一緒に片付けをしている。現在はコロナ防止の為、職員は別の場所で食事をしている	食事の提供については、経営母体である病院において主菜等を調理し、事業所ではご飯とみそ汁を調理している。利用者の状態に応じた刻み食やミキサー食については各ユニットで個別に対応し、適切な形態で提供されている。配膳やテーブル拭き・下膳等については、利用者の能力を尊重しつつ、職員と協力しながら楽しく行うことで生活リハビリの一環となっている。おやつ作りに関しても、利用者が職員とともに参加し、日々の楽しみや意欲向上につながる取組みとなっている。コロナ感染症対策として、現在は職員との合同での食事は実施されていない	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食事摂取量や水分摂取量を確認記録している。医師の指示がある方の水分量や食事制限量を守っている。個々に合わせた食事形態を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所へ誘導し口腔ケアを行なっている。本人だけでは不十分な所は介助し清潔保持に努めている。夕食後は義歯を外し洗浄剤に浸けている。月一回協力歯科医院の往診もある		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表活用にて個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促し自立に合わせた支援を行なっている	排泄については排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを的確に把握することで、可能な限りトイレでの排泄が行えるよう、利用者の状態に応じた適切な支援に努められている。多くの利用者はリハビリパンツを使用しており、安全性と尊厳に配慮した排泄介助に取組まれている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心がけ乳製品も提供しレクリエーションや体操で運動を促し便秘の人には個々に応じた服薬もしている。排便状況をチェックし便秘予防対策を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や本人の意思に沿った入浴支援を行なっている。全入居者様が週二回は入浴できるように柔軟に対応している。入浴拒否があれば原因を探り工夫するようにしている	入浴については月曜日から土曜日まで継続して行われており、週2回以上入浴できるよう務められている。必要に応じて日曜日の入浴にも対応しており、個別の希望や状況に応じた柔軟な対応がなされている。入浴剤の使用は行っていないが、季節行事としてゆず湯やしょうぶ湯などを取り入れて季節感が味わえる工夫がされている。また、利用者の心身の状態や機能に応じて特別浴槽を活用して、安全かつ快適な入浴支援も行われている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて休息時間が取れるように声掛けしている。昼夜逆転を防げるよう工夫し安心して良眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし誰もがチェックできる体制を整えている。お薬手帳も棟で保管している。月に一回薬剤師の訪問薬剤管理指導を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ等のお手伝いで達成感を感じ生活歴を基に趣味や特技で楽しみ事を無くさないように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止対策にて園外レクリエーションや買い物等の外出は控えている。園内でクッキングレクリエーション等を行い気分転換ができるように考えて支援している。以前は花見や地域の行事に参加し外出支援を行っていた	コロナ感染症収束後は、感染対策に配慮しつつ、中庭や園周辺での散歩、クッキング等の園内レクリエーションが実施されている。一方園外レクリエーションや買い物等の外出については引き続き慎重な対応を行っている。なお、季節行事として河津桜の見学については感染状況と安全を確認した上で実施されている	事業所周辺は古代より開けた地域であり、県内でも著名な神社や古刹も多く所在する文化的価値の高い地域となっています。この立地を更に活かし、感染対策には十分な配慮が求められるものの、利用者にとって大きな楽しみである外出支援について、可能な範囲で一層の充実が図られることを期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常は事務所で預り金として保管している。コロナ以前は買い物レクリエーションや外出レクリエーションで自分でお金を使う楽しみを持っていた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを書いてもらい家族の方に送っている。入居者様宛の郵便物は本人に渡している。読めない時は読んで聞いて頂く介助をしている。電話やオンラインで話せるようタブレットを使用して支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場は毎日掃除消毒を行い感染防止に努め清潔保持をしている。入居者様の作品を飾ったり生花を飾り季節感を取り入れている。窓から庭の様子が見られ季節を感じられる	天井が高く、明るく開放的なホールにおいては、歌唱やレクリエーションを活動に興じる利用者の笑い声が響き渡り、日々の生活を楽しく過ごされている様子が伺える。ホール内には利用者が職員と協力して制作した各品や季節の花々が丁寧に飾られており、明るく温かみのある雰囲気の中で快適に過ごせる環境が整えられている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテレビを置き一人で見たり他入居者様と一緒に見て過ごしている。棟出入口の扉横にはホール内にソファを置き場所を変えて過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から説明しご本人の使い慣れた物、使いやすい物等を持ち込んで頂き本人が居心地良く過ごされるように工夫している	ベッドおよびカーテンは備え付けの物を使用しているが、それ以外の単管や机・椅子等については、利用者がそれぞれ思い思いの家具を持ち込み、自由な生活空間が整えられている。居室の壁面には家族写真をはじめとした思い出の品が飾られ、利用者が快適かつ安らぎを感じられる環境となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には手摺りを設置しバリアフリーになっている。浴室にはバスグリップや滑り止めマットを使用しトイレ、洗面所、風呂場にはそれぞれの場所がわかりやすいように工夫し表示している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や中央フロアに掲示している。職員のネームホルダーにも理念を表示し職員全員が理念を意識した支援をできるように努めている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の集会や地域の清掃活動に参加している。地域の方も定期的に育てている花を園に届けてくれる等、交流する機会を持っている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来園や電話にて施設入所の希望や介護保険の支援方法を説明したり認知症についての相談を行っている。また地域の認知症の理解を深めてもらおうと開催された展示会に入居者様の作品を出品、園での支援の成果を発信している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では園での取り組み状況等を報告し話し合いを行いアドバイスを受けサービス向上に努めている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築けるように常に事業所の実情やサービスの取り組みを連絡相談している
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で毎月意見交換を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。全職員への周知指導の為、年に2回園内研修を実施している
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、園内研修により理解を深め職員同士で注意を払い風通しの良い職場環境にすることで虐待防止に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人のついでにいる入居者様があり、その人に必要な支援ができるよう関係者と話し合いを持っている。また制度について全職員が理解し活用できるように園内研修を実施している
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明はケアマネージャー、管理者が行い家族の方の疑問や不安に対して理解納得して頂けるようその都度対応している
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方から連絡、面会時やサービス担当者会（現在電話連絡）時に意見や要望を引き出せるよう職員に周知している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会や棟会議等で問題点を話し合い意見や提案を聞く機会を設け反映させている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じた職員の配置を行い各自がやりがいや向上心を持てる職場環境、条件の整備に努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が講師になり一年間の園内研修計画を立て実施。同系列施設の看護師の講師による研修も行い職員一人ひとりの資質向上に努めている。又、園外研修にも必要に応じて受講している
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回グループの医療福祉連携会議がありその場で同業者との交流を図りサービスの質の向上に取り組めるように努めている。又、園外研修参加により同業者との交流を図り学ぶ機会を持っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りで不安な事、困っている事、要望を聞き職員間で情報を共有し要望に沿った支援により本人の安心を確保できるように努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が望む事、不安な事等の想いを受け止め信頼関係を深められるように努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様と家族の方の要望を受け止め必要としている支援を職員間で共有しより良いサービスを提供できるよう努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができる事を少しずつ把握し一緒に生活する中で信頼される関係になるよう努めている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の暮らしを写真に残し園での生活状況を言葉を添え家族の方に報告している。電話や面会時に近況報告し協力していく関係を築いている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染防止の為、感染対策を行って対面での面会(10分間)を再開している。オンライン面会も行っている。季節ごとに本人に書いて頂いた葉書きでのやり取りを行っている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の合同レクリエーションや棟内でのレクリエーションを一緒に楽しまれている。一人ひとりが孤立しないように配席等に留意し入居者様同士が関わり合い支え合えるような支援に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も経過を尋ね必要に応じて相談支援に対応できる様努めている。また移動先事業所の担当ケアマネージャーにも情報共有を行い支援に努めている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の訴えや想いを把握し希望に沿った生活が送れるよう職員間で話し合い支援に取り入れる様に努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りで生活歴だけでなく生活環境やこれまでのサービス利用の経過等の把握に努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、午前午後のバイタル測定や食事量等介護記録に残し健康状態や精神状態を把握するようにしている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中で本人に発生した課題やケアのあり方についてその都度検討し月に一度棟会議を行い評価と見直しを行っている。家族の方にも見直した点を説明、意見を頂き介護計画を作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス実践表や介護記録、連絡ノートを活用し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かせるようにしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるように努めている(歯科往診等)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止の為、対面で触れ合うことは出来なかったが三本松高校マラソン大会の発着場所として場所を提供したり地域の方から季節ごとにお花を頂きそのお花を入居者様に生けて頂く事で地域とのつながりを感じて頂けるよう支援している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の希望を確認し適切な医療を受けられるよう支援している。また協力病院には職員が、他の科受診には家族の方に協力をお願いしている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問受診や外来受診時に医師、看護師に情報や気づきを報告し指示を受けられるように支援している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、病院と連絡を取り情報、状況を共有し家族にも連絡を取り状況を共有している。地域連携室も利用し関係づくりを行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人と家族の方に重度化した場合の説明を行っている。協力病院、関連施設等へ状況変化に合わせて報告し指示を受けられるようにチームで支援に取り組んでいる
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修等で応急手当や初期対応の訓練や勉強会を行っている。また園内の壁や日誌ファイルにも対応マニュアルを貼り急変や事故発生時に備えている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立ち合いと園独自での消防訓練を行い職員と入居者様も参加して実施している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。不安そうな時や失敗した時には職員が間に入り支援に努めている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように表情から本人の思いや希望を察して声掛けを行う等、働きかけている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースで日常を過ごして頂き一人ひとりがどのように過ごしたいか希望に沿って支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒にその時期に合わせた服装を選びおしゃれが出来るように支援している
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは難しくなっているが皆で円卓に座り食事を一緒に食べる事で食事を楽しまれている。お盆拭き等、入居者様ができる手伝いをして頂いている。☆現在はコロナ防止の為、職員は別の場所で食べている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食事量や水分摂取量を記録し一人ひとりの栄養バランスを確保できている。個々に合わせた食事形態を提供している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け見守りを行い本人だけでは不十分な所は介助している。夕食後には義歯を外し洗浄剤に浸けて清潔保持に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しトイレの訴えが無い方や自力でトイレに行けない方に声掛けを行い定期的にトイレ誘導を行い排泄の失敗を減らすように支援している。自力で行える方は見守りを行いパット内を確認、交換を行っている。排泄パターンや習慣を活かしてトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として水分補給に心掛けている。乳製品の提供やレクリエーション・体操・歩行練習で運動を促している。排便状況を確認し服薬にて対応している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回行っている。入居様様の体調や心境に応じて入浴日の変更を行い支援している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠して頂けるように日中はレクリエーションに参加する等、活動的に過ごして頂き昼夜逆転を防止し正しい生活習慣の支援に努めている。個々に合わせて休息時間が取れるように支援している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬剤説明書をファイルに保管している。薬の目的や副作用、用法や用量について理解できるようにし服薬の支援と症状の変化に対応できるように努めている。月一回薬剤師管理指導を受けている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で一緒にレクリエーションを楽しまれたり個々にクラフト作りや刺繍に取り組まれたりと楽しみや達成感を感じて頂けるように支援している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止の為、外出は控えているが園外散歩や日光浴は行っている。外出に変わる楽しみを考えクッキング等を行い気分転換できるように支援している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預り金として保管している。コロナ感染対策として外出等できていません。外出可能になれば食事や買い物等、入居者様の希望に応じて支援していきたい
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様に暑中見舞いや年賀状を書いてもらったり家族の方からの手紙を自室で保管しいつでも見れるよう支援している。携帯電話を使用できるが1名おり自由に家族の方に連絡し会話を楽しませている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日清掃、感染予防で消毒を行っている。入居者様の作品を飾ったり生花を飾り季節感を取り入れたり入居者様の好きな曲を提供したり居心地よく過ごせる空間づくりに努めている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	丸テーブルにより入居者様それぞれの顔が見れるように座り一緒にレクリエーション等を楽しまれたり気の合った入居者様同士で会話を楽しませている。ホールにはソファを置き場所を変えて過ごせるように工夫している
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に説明し入居者様が使い慣れた物や使いやすい物を持って来て頂き入居者様が居心地よく過ごせるように工夫している
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は広くバリアフリーで廊下やトイレ内にも手摺りを設置し安全に生活が送れるように工夫している。トイレや浴室も場所が分かるように見える位置の柱や壁に『トイレ』『浴室』と表示している

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんな一緒に育むしあわせ」を介護理念にできる喜びや役割を持って生活して頂く為に「寄り添い家族のように関わっていきたい」そんなケアを目指しています
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ等の感染対策を行なった上で地域の清掃活動に参加し地域の一員として交流を深めている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解の為に開催される展示会に入居者様の作品や生活の写真を出品しその支援の状況を地域の人々に向けて発信している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて民生委員や市職員、地域代表の評価、要望、助言等の意見交換を行いサービス向上に努めている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や連絡等、担当者と事業所の取り組みに対しアドバイス等をもらうなど協力関係を築くように取り組んでいる
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束委員会にて各棟の状況を報告し意見交換を行っている。又、毎年2回職員研修計画にて「身体拘束・虐待防止について」の研修を実施し周知を行なっている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、委員会にて虐待について利用者様と職員に関する意見交換を行っている。「身体拘束・虐待防止について」の研修を実施し周知を行い虐待防止に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の付いている入居者様がおり日常生活の報告や意見意向を話し合いそれらを活用できるよう支援している。又、職員が理解できるよう園内研修も行なっている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約等は管理者やケアマネージャーが行い利用者や家族様が安心できるよう不安や疑問点を尋ね説明を行い理解、納得できるように努めている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が利用者の近況報告や意向を家族に報告し家族より意見や要望を聞き職員に周知を行なっている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会や棟会議を行い提案や意見交換、施設の問題点の解決や改善に反映させている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績、勤務状況を把握し労働条件の見直しを行い職員一人ひとりが向上心を持ち質の高いケア提供を目指し努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員が園内研修や園外研修に参加できる環境を提供し職員のスキルアップを支援している
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修計画作成にて外部からの講師の研修に参加したり園外研修に参加し交流を行いサービスの質の向上になる取組を支援している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の思い要望を聞き取りにて把握し棟会議等で課題の解決に努め安心してサービスを利用して頂くよう努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の状態や要望を家族様と情報共有に努め家族様と共に要望や困っている課題を解決し信頼関係づくりに努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」のケアを適切に把握し家族等へ情報共有し必要としている適切なケアプランを作成しより良い支援体制に努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でその利用者に応じた自立支援を目的とし役割を持っていただき生活の質の向上に努めている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、園での生活を写真に撮り言葉を添えて家族様へ定期的に近況報告を行い共に本人を支えていく関係を築いている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策を行いながら面会(10分間)やオンラインでの対応を行なっている。又、園内でも仲良くなった他棟の方に会いに行ったり交流の場を提供する支援に努めている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の日々の会話や要望等を聞き取り過ごししやすい環境(席の位置等)を提供し支援に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後でも必要に応じ利用者様の相談や支援に努めている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に要望や意向を聞き取りサービスの提供に組み入れ日々の生活に反映されるよう努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のこれまでの生活環境や習慣を聞き取り等で把握し安心できる生活を提供することに努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック等にて健康管理を行なっている。バイタル、食事量、排泄表を活用し健康状態の把握に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、棟会議を行いケアマネや職員と日々の状態や状況を話し合いケアプラン見直しを検討している。家族様にも見直した事を報告し要望、意見を聞き取り介護計画を作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で利用者様に変化等があれば記録し連絡帳に記載し職員同士が共有を行い迅速に対応ができるように努めている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で利用者様の変化や家族様の状況に応じケアプランの提案、提供できるように努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方からお花を頂くことがあり利用者様と一緒に花を生けたりしている。又、消防署と協力し避難訓練等に参加してくれている。安全で豊かな暮らしの楽しみを感じるように支援している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や聞き取り時にご本人と家族様等の希望を確認し納得が得られたかかりつけ医に受診できるよう支援している
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院への受診時や訪問受診時に医師看護師に健康状態を伝え情報を共有し迅速な対応に努めている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に連絡を取り病院と情報交換や相談を行い安心できるケアを提供できるよう努めている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時の重度化した場合には家族様に説明は行なっている。医療機関との連携を重視し適切な支援に努めている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え職員全員が迅速に対応できるよう定期的な研修や緊急時のマニュアル整備を記載したり又、壁に貼り目の届く所に掲示している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を実施している。自主訓練と消防署立ち合いの元、入居者様も避難訓練に参加している。職員は園内にある発電機のかげ方の実習を行なっている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声掛け、関わり時や日々のケア(着替え・入浴・排泄介助)には必ずプライバシーが守られるよう環境を整え支援に努めている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者様との会話の中から思いや希望を聞き自身が意思決定できる支援に努めている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を維持できるよう本人のペースに合わせた日常生活における支援を提供している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を行なってもらっている。季節に合った服装を支援している
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆と一緒に食事することで食欲が向上し食事を楽しまれている。台拭きを手渡すと自分の回りのテーブルを拭き隣の方に渡し拭き掃除を行なってくれる
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量、水分量を記録し提供している。個々に合った食事形態にて提供できている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の衛生を保つため声掛け見守りにて口腔ケアを行なっている。口腔ケアの習慣化を促し清潔保持に努めている。夕食後は義歯を預かり洗浄剤に浸け衛生管理に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄において自立できるように排泄表を活用し定期的な声掛けやトイレへの誘導に努めている。身体的なサポートが必要な方は着脱を補助しつつ自立を促進している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の便秘対策にて排泄表の活用や食事の内容や水分摂取量を記入し管理を行なっている。又、必要に応じ看護師や医師と連携し健康管理のケアに努めている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴を行なっている。利用者様のバイタルチェックや体調管理にて対応を行なっている。普通浴が困難な方には機械浴にて安全に入浴できるよう支援に努めている。拒否のあった場合は無理強いせず日時変更やタイミングに合わせている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操・運動・歩行練習や皆一緒にレクリエーションに参加され活気ある生活を支援している。夜間は水分補給や室温の調節を行い安心して眠れる環境づくり支援に努めている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬剤説明書をファイル保管し職員同士が共有できるように目的、副作用、用法、用量について理解し服薬の支援、症状変化の確認に努めている。又、月1回薬剤師管理指導を受けている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が日々の生活において自分らしい役割や楽しみを感じられるよう取り組める活動を提供している。洗濯干しや洗濯たたみ、クラフト作りやクッキングレクリエーションにておやつ作り等、楽しみや気分転換等の支援に努めている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策にて外出は制限している為、園外散歩やドライブにて花や景色を楽しんだり園内にてクッキングを行いおやつやお好み焼き作り等を行い気分転換になるよう支援に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて預り金とし管理保管している。消耗品等、家族様に報告し購入の了承を得ている。コロナ制限の為、外出はできていないが外出レクリエーション時は食事や買い物に支援していた
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様に暑中見舞いや年賀ハガキを書いてもらっている。月1回、利用者様のご様子やイベントに参加した時の写真を撮り利用者様ご本人よりコメントを家族様に書いて頂き日常を共有できるよう支援している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、棟内に職員と一緒に作ったクラフトや作品を季節ごとに飾っている。トイレ後の手拭きタオルには利用者様が作った名札を使用しリラックスできる雰囲気づくりを支援している
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	棟内の食堂の席は決まっているがおしゃべりしたり皆でレクリエーションを楽しむ時は一つのテーブルに集まり楽しむ環境づくりを支援している
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には本人や家族様と相談し使い慣れたものや使いやすい物を使っている。思い出の写真やアルバムを置いたり面会時に頂いたプレゼント等を飾り安心できる居心地よい居室になるよう支援に努めている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目的の場所がわかるように目線に「トイレ」の貼り紙を使用している。利用者様が自立して生活できるように建物のバリアフリー化や手摺りの設置を行なっている。利用者様の転倒・転落防止等の安全対策を強化し支援に努めている